

# 会議結果報告書

令和2年11月13日

会議の名称	令和2年度第1回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	令和2年11月12日(木) 午後1時30分～3時30分
開催場所	健康増進センター 2階 ホール
出席委員	山下和彦会長、中村勝義副会長、宮本日出委員、前野房子委員、 荒野壽子委員、星野賢委員、細沼明男委員、鈴木正憲委員、 中田裕規委員、田中由香委員、隅田由香利委員、宮澤和子委員、 増田康太委員、西和江委員、山本美紀委員、田代健委員 飯田順一委員 (計 17 人)
欠席委員	鎌田昌和委員、田中節子委員、宮下博委員、妙智豊子委員、 大熊啓太委員 (計 5 人)
説明員	安形健康政策課主幹、増田健康増進センター主任、 (計 2 人)
議題	(1) 講義 「いろは健康21プラン(第4期)」の概要について 講師 志木市健康づくり市民推進協議会会長 了徳寺大学教養部教授 山下 和彦 氏 (2) いろは健康21プラン(第4期)、食育推進計画(第2期)、 歯と口腔の健康プラン(第2期)の進捗状況について (3) 市民のこころと命を守るほっとプラン(自殺対策計画)の 進捗状況について (4) 各団体の活動状況について
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0 人)
事務局職員	芦野伸二(子ども・健康部長)、清水裕子(健康政策課長)、大野 広幸(健康増進センター所長)、杉田明子(健康増進センター副所 長)、安形喜代美(健康政策課主幹)、神田浩(健康政策課主査) 、山田美穂(健康増進センター主査)、飯塚奈巳(健康増進センタ ー主任)、小林麻有(健康政策課主任)

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 部長挨拶

3 会長挨拶

4 新任委員自己紹介

5 職員自己紹介

6 議 題

(1) 会長より講義 「いろは健康21プラン（第4期）」の概要について

(2) いろは健康21プラン（第4期）、食育推進計画（第2期）、歯と口腔の健康プラン（第2期）の進捗状況について

事務局より「志木市いろは健康21プラン（第4期）・食育推進計画（第2期）歯と口腔の健康プラン（第2期）」の進捗状況について説明を行った。

(3) 市民のこころと命を守るほっとプラン(自殺対策計画)の進捗状況について

事務局より、志木市自殺対策計画「市民のこころと命を守るほっとプラン」についての概要と進捗状況について説明を行った。

(4) 各団体の活動状況について

各委員より活動状況について報告

副会長：社会福祉協議会では正規職員70人、パート100人を超える職員が働いており、運動習慣への助言はしている。学童などでは子どもと一緒に体を動かしている職員はいるが、女性が多く、家庭のことなどいろいろ大変そうでありいえない部分もある。

委 員：志木市の子どものむし歯保有率は埼玉県平均の約半分となっており、むし歯ゼロ作戦はうまくいっているといえる。一方、高齢者は歯周病率が高い状況となっている。この歯周病については、予防のための通院か治療のための通院かは不明だが、注視していきたい。また、コロナ禍で通院が止まっている人もいるのでここにも注視していきたい。

会 長：医療費がかかっていない人へのサポートも大事だと考える。歯周病は糖尿病と関連があるが、コロナ禍で外出控えがあり、状態が悪くなっていることが懸念される。

委 員：歯周病も含め、フレイル予防のためにも働きかけを継続していきたい。

委 員：食生活改善推進員協議会は令和2年度の事業をほとんど中止していたが、7月から定例会を再開。ヘルシーレシピの作成なら自宅でできると取り組んだ。また、8月からは離乳食教室の手伝いを再開。「新しい生活様式」に合わせて方法の見直しが多く大変だった。9月からはヘルスマイトクッキングの定員を減

らして再開し、試食ができない状況だが持ち帰りにして参加者に喜んでもらっている。会員相互の勉強会も、2回開催して1回の人数を減らす工夫をしながら実施。コロナ禍でも、健康のために活動を続けていくことができればよいと考えている。

会 長：人が集まることは健康のためにはいいことである。

委 員：人とのつながりは大事なこと。交流の場として続けていきたい。

委 員：婦人会の活動は、コロナ禍で外に出る勇気のない人が多く、イベントもなくなった。支部の中で、家にこもりがちな人が集まれるようにと11月にバザーを開催。皆の様子が見られるよい機会となった。品物がまだあるので、再度の開催を考えている。うつ予防など精神的にも、肉体的にも健康状態の改善のために活動を始めたところである。

委 員：体育協会では各団体の事業が縮小されていた。室内の事業はもちろん、外の事業も、荒川の河川敷のグラウンドが去年の台風の影響で5月まで使えなかったことも重なったが、7月から少しずつ実施できている。パークゴルフは年齢層が高いが参加者は増えており、戻ってきていると感じている。室内は施設の基準が厳しく、再開が難しい部分もある。体育協会として人の集まる場所づくりは重要だと考えているので対応していきたい。

委 員：国民健康保険運営協議会は議会の前に会議をする協議会のため、直接、健康づくりに関する活動をしているわけではない。国民健康保険は自営や退職者で75歳までの人が加入する保険組合であるため、加入者が少なくなっていることと、高齢化が問題となっている。加入者の保険料だけでやりくりできればいいが、一般会計からの繰り入れが続いていて健全ではない状況。医療費が減ればこれは健全なものになっていくため、特定健診や“健康になりマッスルプロジェクト”等の保健事業は重要だと考えている。

会 長：国民健康保険加入者の医療費削減のためにもこれからも連携していきたい。

委 員：民生委員としての主だった活動はできていない。自分の地区では口腔体操をすすめている。表情筋の体操は誤嚥性肺炎の予防になるので続けていきたい。

会 長：民生委員は家に閉じこもってしまった人を外に出す最後の砦なので、よろしくお願ひしたい。

委 員：学校が5月末まで休校となり、PTAも活動はなかった。総会も書面開催となった。連合会活動は6月以降に再開したが、10月の研修会は中止した。現状を契機と捉え、今後はWEBでの配信などを考えていきたい。

子どもの健康面では肉体的にも精神的にも負担となり、ストレスが高まった。これを溜めないよう働きかけてきたが、幸いにも、学校側の理解もあり運動会や移動教室などは実施できた。修学旅行も、中学校は全校ではなかったが小学校は全校で実施できたことはよかった。これまで通りの環境を整えることが子どものためになると考えるので、これからもストレスを溜めないような環境づくりに取り組んでいきたい。

会 長：”志木っ子元気！子どもの健康づくりプロジェクト”の取り組みは、PTAの方と連携がとれるとスムーズに進むので、今後も協力をお願いしたい。

委 員：保健所はこのコロナ禍で、栄養、健康づくりが本来の業務であるが、感染症対策にかかりきりになってしまっている。コロナ禍でのフレイルと肥満の顕在化が始まっていると感じている。住民のサポートをする関係者のサポートが保健所の使命ではあるが、研修会もなかなかできず、やっと、Zoom研修を始めたところ。11月に働きざかり世代の健康づくりについてYouTubeでの研修を企画している。顔を合わせて話すことが大事だが今はできない状況であるが、今後落ち着いたら、併用してやっていきたい。

会 長：子どもの脂肪肝なども課題となっている。今後も保健所と協力しながら取り組んでいきたい。

委 員：学校は、子どものことについて担っていく大事なところと考えている。3か月に及ぶ休校、6月からの分散登校開始で子どもから「通学路で疲れた」との発言あり。毎日歩いていたはずなのに朝、来るだけでこの発言。体力テストができず、データで示すことはできないが、体力が相当低下している様子だった。学校ではできることを工夫し、注意しながら体力の回復に取り組んでいる。また、友達に会えないことがストレスになっていた様子。携帯電話やゲームでのつながりはあまりいい影響を与えていなかったため、指導が必要だった。子どもにとっては頼れる大人が身近にいることが大切。保護者や地域の大人が関わってくれることに感謝している。学校では、できないことではなく、今、何ができるのかを見つけて工夫し、知恵を出し合って取り組んでいる。学校活動の中で、フッ化物塗布、足育のこと、給食での減塩メニューの取り組み等、意識してもらうことを大切に、家庭との連携を進めていきたい。

委 員：いきいきサロンは活動開始から20年になる。現在は生きがいサロンとして志木二小で縮小して活動し、今は公園での太極拳だけを実施。サロンに集まる事業は中止している。先日、人員制限が緩和されるという嬉しいニュースを聞いた。介護予防に重点をおき活動してきたが、動けないことが残念。来年くらいから活動を再開できればと思っている。

会 長：地域コミュニティーは健康づくりの柱なので、よろしくお願ひしたい。

委 員：休校中、小学6年生の女児から「私はうつだ」という言葉が出た。これは何もしないわけにはいかないということで、集まる場を外での活動とし、工夫し分散して再開した。ドッチボール等、接触しない遊びをしていた。また、咳エチケットや手洗いは感染症予防の基本のため、特に重要と考え、志木三小の校歌を手洗いの替え歌にしたり、咳エチケットはトレーニングに取り入れて実践している。

高齢者については1週間、2週間で体調がどんどん変わるため、体幹の変化は写真を撮って送ってもらうことで対処していたが、なるべく外に出るプログラムに誘っている。また、これまで中学生による訪問も行っていたが、今はできないので“お手紙作戦”に変更して活動を継続。好評を得ている。『転倒リスクの低い人は、子ども時代に多様な経験をしている人が多い』というデータもあるので、引き続き、活動を続けていきたい。

委 員：歯科衛生士会では、市立保育園でむし歯予防教室を実施しているが、コロナ禍に対応した方法に切り替え、3園すべてで実施することができた。しかし、就学時健診での講話の機会がなくなり残念に思っている。

長寿応援課から、フレイル予防のための講話を依頼されていたが、現在は止まっている。フレイル予防のサポーターの活動が再開したと聞いたので連携できたらと思っている。

委 員：学校の健康診断は例年、6月30日までに終わっているが、今年度はまだ終わっていないため、現状把握ができていない状況ではあるが、肥満傾向、視力低下が進んでいる印象がある。

校内の衛生管理については消毒等、生徒が下校した後に職員で実施していた。9月からは生徒にも少しずつ手伝ってもらっている。また、保健室は第2保健室を用意し、通常の保健室と感染症症状の見られる場合の対応を分けている。子どもたちの意識も高まったようで、手洗いする生徒が増えた。

むし歯ゼロ作戦の取り組みについては、飛沫に対しての不安があるため、唾液テストなど従来のものを自身の歯科検診の結果を確認する方法に変えたりと、内容を変更して取り組んでいる。フッ化物洗口は6月から実施を再開したが、学校によっては未だのところもあり、状況に応じて進めている。

委 員：薬局で実施している啓発キャンペーン等はすべて中止。勉強会も1月の実施が最後になっており、新しい方法を考えていかねばと感じている。コロナ禍を受け、オンライン診療が始まり、同じ薬局を使う人も増えていて、かかりつけ薬局を持つという意味ではよい傾向にあると感じている。また、今回のこ

とだけではないが、メディアで何か報道されると一気に人が集まり、パニック状態になることも多いため、イソジンやマスク、体温計のことなどは、薬局にいる専門家に相談してもらい、冷静な判断をしてもらえればと思っている。

会 長：ポリファーマシーの問題には医師会、薬剤師会との連携が不可欠である。一緒に取り組んでいきたい。

委 員：5月に予定していたノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会は中止となった。来年5月の第3日曜日に3密を避けて開催できるよう、調整中である。ノルディックのサークルは市内に3サークル、朝霞に1サークルあり、この4サークルでコースを担当し、1,000人規模だった参加者を500人に減らして実施することを考えている。志木市の賑わいづくりも兼ねているので、皆様の協力をお願いしたい。なお、ノルディックのサークル活動は、事前の健康チェックや検温の実施と2m間隔で歩くことで再開している。

会 長：子どもの15%が扁平足といわれており、課題と考えている。それぞれの団体がよい活動をされているので、地域や学校と連携することでさらにより活動として続けていければと考えている。

#### 7 その他

事務局：今年度はコロナの影響を考慮し、本日の会議で最後となる。次年度は役員改選の年になるので、改めて、各団体に委員の推薦を依頼する予定なので協力をお願いしたい。

#### 8 閉 会